

進捗状況報告シート

(2010年度・大学)

担当部局は☆印の箇所を記入のこと。

I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	統括部局：学長室	担当部局：学長室
大項目	12 管理運営・財務（研究科）《全学的な視点》	
中項目	12.1 管理運営	
小項目	12.1.1 大学の理念・目的の実現に向けて、管理運営方針を明確に定めているか。	
要素	中・長期的な管理運営方針の策定と大学構成員への周知 意志決定プロセスの明確化 教学組織（大学）と法人組織（理事会等）の権限と責任の明確化 教授会の権限と責任の明確化	
小項目	12.1.2 明文化された規程に基づいて管理運営を行っているか。	
要素	関係法令に基づく管理運営に関する学内諸規定の整備とその適切な運用 学長、学部長・研究科長および理事（学務担当）等の権限と責任の明確化 学長選考および学部長・研究科長等の選考方法の適切性	

II. 自己点検・評価《進捗状況報告》

【現状の説明】

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定した。

目標の進捗状況は「A:適切に実行している」「B:概ね実行している」「C:必ずしも実行していない」「D:実行していない」とし、自ら評価した。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
1. 新基本構想推進委員会との協同によって、新中期計画を着実に執行する。	→新中期計画における各実施計画案の進捗状況	B
2. 新基本構想に盛り込まれながら素案にとどまった諸案の検討を進め、実施計画化する。	→新規に立案される実施計画案数	B
3. 教員の組織的な連携体制と責任の明確化により、新たなガバナンス体制・マネジメント体制を構築する。	→2009年12月までに法人と大学が一体となったガバナンス検討委員会の答申を作成し、新たなガバナンス体制・マネジメント体制構築の方向性を大学評議会、理事会に報告し、2010年度以降に引き継ぐ。	D

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
	→	☆
	→	☆

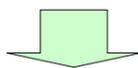
《小項目ごとの現状説明》 ※ 全小項目について記述が必要

☆	小項目 12.1.1	(方針) 新基本構想にのっとり、ガバナンス検討委員会が設置され、その答申が理事長、院長、学長に提出された。当初の方針としてはそれを大学としては大学評議会で懇談し承認を得るとともに、法人も理事会で承認をすることで新たなガバナンスの体制作りを目指した。 (現状説明) 大学評議会における懇談は答申に対する否定的意見が大勢を占めた。これを受けて理事長、院長、学長は経営教学協議会終了後に時間をとり大学評議会構成メンバーとの懇談を複数回持った。
☆	小項目 12.1.2	現行に基づく意思決定メカニズムに沿って管理運営がなされている。
☆	その他	

◎効果が上がっている事項

【点検・評価 (1)】効果が上がっている事項

★	小項目 12.1.1	大学評議会での懇談においては現行の意思決定の仕組み自体は問題とされず、むしろ既存の仕組みを所与としたうえでの運営に改善の余地があるとの指摘があった。このことにより論点の違いが明確となった。
	小項目 12.1.2	
	その他	



【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策

★	小項目 12.1.1	現在、善後策について3長間で調整中である。
	小項目 12.1.2	
	その他	

◎改善すべき事項

【点検・評価 (2)】改善すべき事項

★	小項目 12.1.1	まずは既存の意思決定のフレームの中で関係者間の意思疎通を図り、相互の信頼関係を再構築することなしに事態の進展は望みがたい。
	小項目 12.1.2	
	その他	



【次年度に向けた方策(2)】改善方策

★	小項目 12.1.1	
	小項目 12.1.2	
	その他	

◎自由記述

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】

★	その他 (自由記述)	
---	---------------	--

Ⅲ. 学内第三者評価

<評価推進委員会からの評価> (実務作業は評価専門委員会、評価情報分析室、企画室)

【学外委員】

- 各実施計画案の進捗状況、新規に立案される実施計画案数の進捗状況の説明が不明です。
- 関西学院は従来までは、部局レベルのPDCAサイクルを運用する取り組みを継続的に行ってきたり、一定の成果をあげているとみられる。次の段階として懸念されるのが、現場の「改革疲れ」と呼ばれる事態であり、それを打破するためには連動して組織全体の改革、ガバナンスの見直しなどのトップダウンの取り組みを推進することが重要です。
- そのような認識に立ったときに、本項目の進捗評価に危機感が感じられないのは残念であり、より強い問題意識を学内に発信することが期待されます。

【学内委員】

- 新たなガバナンス体制・マネジメント体制の構築の進捗評価は「D」です。その進捗を進めることを期待します。
- 新基本構想のガバナンスだけでなく、小項目で問われていることについて広く説明をお願いします。
- 大学の管理運営に関して、ガバナンス検討委員会をめぐる状況が記述されていますが、「小項目ごとの現状説明」が求められているので、小項目12.1.1と小項目12.1.2について、簡潔に現状の説明をまとめるのがよいと思われます。
- 自己点検・評価は、本学の状況や考え方を社会にわかり易く説明する役割もあります。また、認証評価につなげることも視野に置く必要があります。加えて、本シートを見ればある程度のことわかる必要があります。そのためにももう少し現状説明をお願いします。「現行に基づく意思決定メカニズム」だけではわかりません。
- 効果が上がっている事項の【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策の中の「3長間」は外部にも理解できるように記述してください。
- 本学にとってどのようなガバナンス体制およびマネジメント体制が必要かということをもまず明示すべきでしょう。
- 大学基準協会の「評価に際し留意すべき事項」(ハンドブックP78～)に留意してください。ここで示されていることについて現状説明していくことも基準の自己チェックにもなり有効です。基準に達していない場合は、必ず記述してください。

IV. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

★ なし

V. 本項目の評価指標

<全学的な指標>

<個別的な指標>
